

平成24年9月5日に第20回日本ログハウス・オブ・ザ・イヤーの最終選考が行われまして、
 厳正なる審査の結果、『ログハウス集落』が2012年度日本ログハウス・オブ・ザ・イヤー最優秀賞を受賞しました。

ログハウスマガジン
**夢の丸太小屋
 に暮らす**

LOGHOUSE
 MAGAZINE
 SINCE 1985
 November 2012
 No.127 価格 11
 bimonthly



JAPAN LOGHOUSE OF THE YEAR 2012 日本ログハウス・オブ・ザ・イヤー 受賞作品発表!

毎年優れたログハウスを選出するログハウスコンペティション「日本ログハウス・オブ・ザ・イヤー」も、今年で第20回を迎えました。9月初旬に行われた選考会にて白熱した議論が交わされた結果、受賞作品が決定。見事、受賞の栄冠を手にした全11作品をご紹介します。

Entry No.14
スタイリッシュ・シーサイドリゾート
 応募＝南TALOインターナショナル、南アーキテック

海が目の前という立地を存分に生かしたマシンカット。ログハウスは山小屋だけじゃないと思わせるデザインと、洗練されたライフスタイルまで想像できる、トータルコーディネートされた空間が高評価を受けての受賞

Entry No.25
ログハウス集落
 応募＝はりろうウッドスタジオ、日本大学工学部 浦部智義研究室、日本ログハウス協会東北支部、東北大学研究科五十嵐太郎研究室

ログハウスを東日本大震災の仮設住宅として活用した作品。福島県内3カ所に、長屋風ログハウスが建てられている。仮設住宅としてログハウスを活用するというプロジェクトのコンセプトが評価されての受賞となった

選考委員のご紹介

選考委員
 建築ジャーナリスト
中谷正人氏
 Masato Nakatani

1948年神奈川県生まれ。千葉大学客員教授。千葉大学工学部建築学科卒業後、新建築社入社。1988～94年『住宅特集』『新建築』の編集長を務める。同社退社後「中谷ネットワークス」設立。「土佐の家」を刊行するなど、建築ジャーナリストとして活躍中。1997年『日本都市セミナー』の「木と暮らす——日本の作法・フィンランドの知恵」において、キュレーターを務め、その一環として間伐材を利用したログ建築ワークショップを開催するなど、フィンランド建築にも造詣が深い。

選考委員
 工学博士、東京大学名誉教授
坂本 功氏
 Isao Sakamoto

1943年徳島県生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。工学博士。東京大学名誉教授。NPO木の建築フォーラム理事長などを務め、現在、財団法人 日本建築防災協会 副理事長・副センター長、日本住宅の耐震耐震法研究・開発および普及・啓蒙活動に関する業績で日本建築学会賞受賞。ログハウス建築においては、「丸太組構法技術基準」の原案作成において、検討委員長をつとめた。「木造建築を見直す」(岩波書店)、「地震に強い木造住宅」(工芸調査会) など著書多数。

選考委員長
 オークヴィレッジ代表
稲本 正氏
 Tadashi Inamoto

1945年富山県生まれ。作家、工芸家。立教大学勤務後、1974年に「人と自然、道具、暮らしの調和」を求めて工芸村「オークヴィレッジ」(岐阜県高山市)を設立。お米から建物まで幅広い工芸を展開する。また、緑林活動を行い地球環境における森林生態系の重要性を発信している。1999年、長年にわたる環境保護活動の功績により「みどりの日」自然環境功労者表彰受賞。現在、岐阜県教育委員会教育委員、立教大学「立教セカンドステージ大学」教員、一般社団法人国際個別化医療学会評議員などを務める。「日本の森から生まれたアロマ」(世界文化社)、「緑の国へ」(オルタナ)、「心に木を育てよう」(PFI研究所) など著書多数。